

巻頭言

広島県立総合技術研究所が発足して3年経過して

センター長 前川 啓一

私たち水産海洋技術センターを含む県立の8試験研究機関は広島県立総合技術研究所として統合されるとともに、新たな組織体制でスタートして3年が経過しました。今後は、総合技術研究所として一所化された各センターの真価が問われる段階に入ってきました。

昨今の水産業界を見ますと、とりわけ地方での経済状況の好転の兆しが鈍い中、水産業は、全国的に景気後退の影響や流通システムの変化への対応の遅れなどから、漁業生産・出荷構造の脆弱化といった大きな課題を抱えています。こうした状況下にあって、各地では、収益性の高い漁業への転換を図る動きや地域内の相互連携や外部との連携を行う取り組みなど新しい動きが見られます。

県内でもこうした機運を盛り上げていく必要があります。当センターでは、昨年度から漁業経営の収益性向上を目指した出荷、流通の一助となる研究課題として「地付き魚の蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送技術の開発」を開発研究としてスタートさせています。また、かきの関係では、開発研究課題の「江田島湾におけるかき養殖適正化技術開発」が昨年度で終了しましたが、今年度からは、新たな開発研究として出荷流通部分の課題に目を向けて「むき身かきの鮮度保持技術の開発～広島かきのシェア回復・拡大に向けて」を立ち上げています。

当センターの研究は、開発研究を中心に推進し

ていくこととなりますが、現場からのニーズに応じその他の分野でも受託研究などで取り組むこととしています。

今後の研究推進におきましては、企画段階から成果移転を意識して、できるだけ早く現場で成果を活用していただけるよう進めるとともに、既に開発してきた技術も、広く利用していただけるよう技術移転にも力を入れ、業界の皆様への貢献度を高めていきたいと考えています。また、新たな技術支援制度も導入されて3年目になりますが、この制度を積極的に利活用していただけるよう業界等との接点を多角的に持ちたいと考えています。

このようにして、県内業界への効果的な技術支援を行い、水産海洋技術センターの存在を少しでも高めていけるよう組織を挙げて取り組んでいきたいと思っています。今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

